

バイोजパン2007 JETRO BIOLINK FORUM2007に出展しました

平成19年9月19日(水)～21日(金)の3日間、バシフィコ横浜で開催された「バイोजパン2007」に、東海パイオものづくりプロジェクトとしてNPOパイオものづくり中部と共同してブースを出展しました。会期中は日本を含めて19の国と地域から企業、政府機関、大学、クラスターなど多数出展し、出展者数は403機関で来場者数は1,630名に達しました。

みえメディカルバレープロジェクトのブースでは、昨年同様、三重県、三重大学、(株)三重ティエルオー、津市、ドイツ・ピオコンバレーが共同で展示を行い、それぞれが推進する事業、研究シーズや企業誘致などについて、来場者と活発な情報交換をすることができました。



■ バイोजパンブース



■ バイオリンクフォーラム

また、隣接するヨコハマグランドインターコンチネンタルホテルでは、9月20日(木)に「JETRO BIOLINK FORUM2007」クラスター・企業ネットワーキングが開催されました。この会場には、国内外70(うち海外44)のバイオクラスターが参加しており、みえメディカルバレープロジェクトとしてクラスターの存在をPRすると共に、対日投資に興味を持つ海外企業・クラスターに対し、企業誘致担当者が三重県のポテンシャルについて説明を行いました。

3日間の会期中多くの国内外の企業、大学、クラスター等と意見交換、情報交流ができ、メディカルバレープロジェクト等について情報発信する絶好の機会となりました。

みえ福祉用具フォーラム 2007

平成19年12月17日(土)みえテクノイドセンターと県の主催で、三重県人権センター多目的ホールにて、福祉用具に関する啓発を目的にみえ福祉用具フォーラム2007が開催され、福祉施設等の職員や福祉関係の大学・専門学校の学生など約100名の参加者がありました。

会場では、福祉用具アイデアコンクール表彰式と基調講演が行われました。表彰式では、新製品や改良のアイデアなど111点の応募作品の中から最優秀賞「スライド式てすり」など6作品が表彰され、イラストによる作品のイメージ紹介もありました。

なお審査員を代表して、福祉用具ものづくり研究会主査でもある三重大学大学院工学研究科池浦良純教授から、「応募作品の中にはすぐに使えるアイデアもあり、研究会にて製品化にむけて検討したい。」とコメントがありました。

また、続いて横浜市総合リハビリテーションセンター渡邊慎一作業療法士から「福祉用具の観点からみる介護保険制度」と題して講演をいただきました。

平成19年度福祉用具アイデアコンクール受賞作品

賞	作品名	受賞者
👑 最優秀賞	スライド式てすり	伊藤 卓也
👑 優秀賞	つめ切りBOX	水谷 哲也
👑 優秀賞	形態安定コップ	田中 一彦
🏆 伊勢新聞社賞	ペットボトルオープナー	池田 絵美
🏆 日本福祉用具供給協会三重ブロック賞	移動可能式らくらくフォン	位田 卓也
🏆 みえメディカル研究会賞	楽ちん握り棒	宮下 英 (敬称略)



■ アイデアコンクール表彰式

薬系大学の企業説明会に初めて出展しました

県内の企業・薬局・病院等の薬系人材の確保のため、毎年、薬系大学を訪問してきましたが、今年度訪問した中部地域の薬系大学2校から企業説明会出展のオファーがあり、県薬剤師会や県薬事工業会と連携して初めて出展しました。また、県内企業にも呼びかけてそれぞれ2社が出展していただきました。



■ 金城学院大学での企業説明会

金城学院大学では、全体で45のブースに製薬企業や薬局などが出展しており、メディカルバレー関係では計3ブースを出展しました。共同出展のブースには、17名の学生に訪問していただきましたが、薬学部が開設されて初めての3年生(1期生)であり、卒業生がいないためか情報収集に熱心で自らの進路を真剣に考えている姿が印象的でした。また、昨年8月に津市で開催した就職ガイダンスに参加いただいた学生も多数訪問していただきました。

名城大学では、2日間で計119社が出展しており、メディカルバレー関係では計5ブースを出展しました。三重県のブースには、7名の学生に訪問していただきました。県立病院よりも行政の仕事に興味を持つ学生が多かったことが印象に残りました。

ただし、全体を通して感じたことでもあります。病院や薬局に比べて製造業や県の業務内容がごく一部しか学生に伝わっていないということです。これは、「調剤・服薬指導」という学生

大学名	金城学院大学	名城大学
出展日	平成19年12月8日(土)	平成20年1月10日(木)
出展者	①県薬剤師会・薬事工業会・三重県(共同出展) ②中外医薬生産(株) ③万協製薬(株)	①県薬剤師会 ②薬事工業会 ③三重県 ④万協製薬(株) ⑤(株)アスター美容

にとって身近な業務に比べて、製造管理・品質管理・研究開発などの情報があまり提供されていないことが原因ではないかと感じました。

そのためにも今後もこのような説明会に積極的に参加するとともにインターンシップの受け入れなど学生への情報提供を進めていきたいと思えます。

委託研究・共同研究補助事業の追跡調査を実施!

「メディカルバレープロジェクト」では推進事業の一環として、平成14年度から県内の医療・健康・福祉分野の中小及びベンチャー企業と大学等高等教育機関・研究機関等との産学官民の連携を図り、研究開発を促進する目的で、委託研究及び共同研究補助事業を実施しています。

この事業の成果を基に国などの競争的資金を獲得して次のステージに進み、知的財産化や製品化が実現されるなど成果が生まれています。

平成18年度はこれまでの採択事業について事業終了後の成果や課題の分析、今後の事業への効果的な改善などを目的にアンケート調査を実施し、成果のあった事業については、個別にヒアリング調査を行い、成果事例として報告書にまとめました。この「みえメディカルバレー産学官委託研究・共同研究補助事業調査報告書<平成14～17年度実施分>」を希望される方は三重県業務食品室までご連絡下さい。

本年度は18年度に実施した委託(補助)事業を対象に、昨年度と同様に調査を行い、成果事例をまとめていきます。この調査結果については、メディカルバレーHP (<http://www.mvp.pref.mie.jp>)に掲載しますのでご覧下さい。



■ 野呂先生と共同開発中の痛み定量化装置

これまでの共同研究・委託研究採択件数

事業名	採択件数						計
	H14	H15	H16	H17	H18	H19	
共同研究補助							
医療・健康・福祉産学官共同研究	7	9	10	5			31
バイオベンチャー産学官共同研究		5	4	2	2	1	14
健康福祉ものづくり研究開発						3	3
メディカルバレー創造的人材育成事業					6	5	11
知的拠点活性化支援事業						3	3
委託研究							
天然資源活用バイオ関係委託研究	3	4	4	3	3		17
液晶技術応用先端医療機器等委託研究	2	3	3				8
医工連携型医療機器等(液晶技術から対象を拡大)					3	2	5